



文部科学省グローバル COE 国際シンポジウムを開催 —5年間のG-COEプログラムの集大成、世界に冠たる成果の発表—

概要

5年間にわたる九州大学グローバル COE (G-COE) 拠点「未来分子システム科学」の集大成となる、教育研究活動の成果を発表する国際シンポジウムを11月25日、26日に九州大学伊都キャンパスにおいて開催します。

シンポジウムでは、招聘した本研究分野に関する世界的な研究者7名、及び本拠点メンバーから7名の講演者が成果を発表するほか、博士課程コース生による47件のポスターセッションを計画しており、世界最先端の研究に焦点をあてた国際シンポジウムとなります。

なお、本G-COEは本年度をもって終了しますが、今後は平成22年4月に発足した「分子システム科学センター」が核となり、九州大学における国際的化学研究拠点形成を継続的に推進・展開します。

背景

今年度は九州大学G-COE「未来分子システム科学」(平成19—23年度、拠点リーダー 君塚信夫 工学研究院応用化学部門 主幹教授)の最終年度であり、5年間の教育研究活動の集大成として、教育と研究に焦点を当てて2回の国際シンポジウムを開催することにしています。まず5月に若手中心の教育に焦点を当てた国際シンポジウムを開催し、このたび、世界最先端の研究に焦点を当てたシンポジウムを今回開催することになりました。

開催概要

2011 グローバル COE 国際シンポジウム

日程：平成23年11月25日(火)、26日(水)

会場：九州大学伊都キャンパス 稲盛財団記念館 稲盛ホール

内容：5年間にわたり蓄積してきた「未来分子システム科学」に関する世界的な研究成果について、招聘された海外連携拠点の著名な7名の講演者講演を行います。また、本拠点からも7名の講演者を行うほか、博士課程コース生による47件のポスターセッションも行います。本G-COE5年間の成果を総括するとともに、文部科学省リーディング大学院を含む次のステップに向けての指標を得ることを目的としています。

関連 URL (日程・講演者名詳細)：九州大学 G-COE プログラム 未来分子システム科学

<http://www.chem.kyushu-u.ac.jp/gcoe/jpn/symposium/2011/11/he-2011-global-coe-internation.php>

期待される効果

- ・若手研究者、博士課程学生の国内ならびに国際的なネットワーク(人脈)づくり
- ・英語を自由にあやつりコミュニケーションできる若手研究者・大学院生の育成
- ・大学や国籍の壁を越えた若手研究者の共同研究・連携の端緒
- ・若手研究者が将来、国際舞台で活躍するために必要なスキルと自信の獲得

今後の展開

- ・参加者(若手研究者・博士課程学生)間の大学・国籍を超えるネットワーク形成
 - ・上記ネットワークの基づく人的交流を基盤とする連携・共同研究の発展
 - ・グローバル COE プログラムのアウトプットとして平成22年4月に九州大学分子システム科学センターが設立されています。<http://www.chem.kyushu-u.ac.jp/~ircms/>
- 今後は、“分子システム化学”に関する研究を、同センターを核として推進し、分子システム化学に関する世界拠点形成を継続的に推進します。

【用語解説】

・**文部科学省グローバル COE プログラム**: <http://www.jsps.go.jp/j-globalcoe/index.html>

平成 14 年度から文部科学省において開始された「21 世紀 COE プログラム」の評価・検証を踏まえ、その基本的な考え方を継承しつつ、我が国の大学院の教育研究機能を一層充実・強化し、国際的に卓越した研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図るため、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援し、もって、国際競争力のある大学づくりを推進することを目的とする事業。

・**九州大学グローバル COE 拠点「未来分子システム科学」**: http://www.chem.kyushu-u.ac.jp/gcoe/index_j.php

「未来分子システム科学」の新分野を開拓・発展させ、分子システム科学をコアとする世界最高水準の先端化学教育研究拠点を構築することを目的とする文部科学省グローバル COE プログラムの九州大学拠点（拠点リーダー：君塚信夫 工学研究院 応用化学部門 主幹教授）です。

生命（細胞）における分子システムは、生命情報活動の根幹をなしていますが、化学的観点から分子ネットワークシステムを研究し、その原理を高機能材料の開発へ展開する学問領域は未開拓です。本拠点においては、様々な階層（ナノ、マイクロ、マクロ）レベルにおいて分子情報やエネルギーの伝達・変換機能を発現する新しい分子材料、ならびに分子システムの開発を行っています。さらに、その成果をインテリジェントな触媒、分子エレクトロニクス材料や、イオン・電子伝導システム、ドラッグデリバリーシステム、生命情報変換システムなど、革新的な分子システムやデバイスの創製に結びつけて未来の化学技術を生みだすことを目指しています。このように、生命分子システムの知恵を学び、新しい化学の分野を創造することのできる研究者の育成を行っています。

・**九州大学分子システム科学センター(IRCMS)** <http://www.chem.kyushu-u.ac.jp/~ircms/>

分子システム科学センターは、九州大学グローバル COE プログラム「未来分子システム科学」の教育研究組織を基盤とし、分子システム科学分野における国際的最先端研究中枢を構築することを目的として平成 22 年 4 月 1 日に発足しました。本センターでは、分子システムのデザイン・構築と応用に関する世界トップレベルの研究を強力に推進すると同時に、国内・海外の研究拠点と自己組織性ソフトマテリアルに関する連携研究を推進し、新しい学問分野である分子システム科学の展開をはかります。

【お問い合わせ】

工学研究院特任教授 分子システム科学センター
財部 邦英（タカラベ クニヒデ）

電話：092-802-2934
（携帯電話 080-1054-5197）

FAX：092-802-2934

Mail：ktakarabe@mail.cstm.kyushu-u.ac.jp